

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入
中之町 10 番地

TEL:075-211-7277

FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

「共同親権」は大丈夫？

—DV被害者や子どもの幸せを願う人たちの現場から—
大岩祐司・申佳弥・渡辺和恵 編著

26年実施予定の「共同親権」は父母の葛藤や衝突をかえって大きくし、子どもの幸せにつながらないことも懸念されています。本書では、医療、保育、学校、児童福祉などの子どもと接する職場からの懸念、DV被害者支援、そして家庭裁判所など、関係する職場で働く人の声を紹介しています。

（執筆協力：加賀美理帆、濱和子、山崎菊乃、中矢正晴、大阪の教育・児童福祉で働くみなさん）

2025年9月発売

A5判88頁 定価1100円（本体1000円＋税） ISBN 978-4-7617-0758-3

唐鎌直義編著『現役世代の社会保障——政府の全世代型社会保障批判』

A5判200頁 定価2200円（本体2000円＋税） ISBN 978-4-7617-0757-6



学習の友社 〒113-0034東京都文京区湯島2-4-4全労連会館5階
TEL 03-5842-5641 FAX 03-5842-5645 メール tomo@gakusyu.gr.jp

能登のみなさんにつながって



8月30～31日、石川県七尾市にて第30回社会福祉研究交流集会を開催しました。1日目は七尾市の商工会議所を会場に全体会を開催し、2日目は輪島方面と穴水方面に分かれ、視察をおこないました。穴水コースの昼食は、能登町にある農家民宿・春蘭の里へ。黒瓦と白壁が特徴的な「能登様式」の家屋で、輪島塗の食器で用意された里山の幸をいただきました（写真）。



障害者支援施設・石川県精育園では、被災の状況のほか、120名おられた利用者のうち、いまなお68名の利用者が県内外の他施設で避難生活をつづけざるを得ない状況などについて、お話をうかがいました。また、施設内の食堂をお借りして喫茶コーナーをもうけ、利用者さんとおやつを食べながら、音楽に合わせた体操やゲームで楽しいひとときを過ごしました(写真)。



輪島コースは、輪島診療所をお借りして、^{かわさきくにゆき}河崎国幸さん（輪島市役所健康福祉部長）、^{かみはまゆき}上濱幸子さん（輪島診療所事務長）のお話をうかがったあと、輪島市在住の^{さどろい}佐波麗子さん（「健康友の会」専従役員）に地域を案内していただきました。

地震にくわえて水害にも見舞われ、大切な人や地域を失い、まだまだ日常を取り戻せていないなか、県外から団体が被災地を訪れることが現地の方の負担にならないだろうか、という議論もありました。しかし、現地のみなさんが言われたことは、「現地にきて、見たことをぜひ発信してほしい」「外に発信することもボランティアの大切な役割」「県外のみなさんとのネットワークを広げていかなければ復興はむずかしい」などの切実な言葉でした。



石川県では、能登半島地震で半壊以上の被害等を受けた被災者に対する医療費の窓口負担や介護サービスの利用料免除が、2025年6月をもって打ち切られました。岩手県から参加された陸前高田市議会議員の大坪涼子^{おおつりようこ}さんからは、岩手県では東日本大震災後、11年間医療費窓口負担と介護保険利用料の減免をつづけたこと、それを実現させたのは署名運動をはじめとした住民の運動であったこと、能登でも実現できるはず！ との会場発言をいただきました。水上幸夫^{みずがみ ゆきお}さん（石川勤労者医療協会）からは、免除の再開を求めて署名運動をスタートさせると紹介がありました（署名は12月末まで。様式は石川県社会保障推進協議会のホームページからダウンロードすることができます）。能登をわすれないこと、現地の経験から学ぶこと、つながること、発信すること……尊厳ある地域での暮らしを守るために、それぞれの立場からできること、やるべきことをたくさん考えた2日間でした。

（写真・文 申 佳弥）

●特集● 尊厳ある地域での暮らしを守るために
～第30回社会福祉研究交流集会 in 能登～

〈記念講演〉 尊厳ある暮らしをささえるために 医師として、家族として、住民として語る複合災害 小浦 友行	11
〈シンポジウム〉 災害時における福祉の役割を見つめて 滝井元之さん／河元寛泰さん／阿部知幸さん／丹波史紀さん	19
〈2日目〉 視察～輪島・穴水方面へ～	26

●トピックス●

「今日より明日はよくなる」のか？！ 石倉理事長にきく「骨太方針2025」のポイント〈前編〉	34
真田是先生の思想と実践	丹波 史紀 38
大阪市による避難者追い出しを許さないⅢ	朴 仁淑 44

●連載●

阪神・淡路大震災発生から30年 第8回 災害時における保育所の役割に引き合って〈前編〉 増田 百代	48
なかまと職員と家族と、ともに築く暮らしの場 自立・自律のタイミングと親の思い	糸瀬 洋子 52
続・ヘルパー歳時記 最期までピアノと一緒に②	56
WORK WORK——わくワク—— 地域の伝統を活かして、利用者がやりがいを見つかる場に ひだまりの家	60
JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合 (56) 福祉保育労第41回定期全国大会を開催	62
私の履歴書 社会福祉経営全国会議 (56) 社会福祉を仕事にできたことは幸せです！	瀧 昭一 64
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 (76)	水野阿修羅 66
育つ風景 保育園のICT化	清水 玲子 68
映画案内 『ぼくのお日さま』	吉村 英夫 70
現代の貧困を訪ねて 台湾の野宿者支援団体「芒草心」を訪ねる (その1)	生田 武志 72
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート 炎のストレート優勝監督じゃ！	ラッキー植松 74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜 76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子



平和と笑いをつなぐ 落語

桂 福点 四代目桂福團治門下

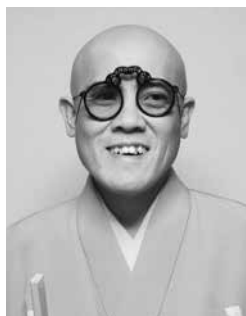
私は生まれつき視覚に障害をもち、幼少期は弱いながらも片目に視力が残っていました。中学三年生までは障害のない子どもたちと同じ学校に通い、その後、盲学校へ転校しました。子どもの頃から落語の真似をしたり、レコードを逆回転させて音遊びをしたり、漫画を描いたり、「声」「音」「物語」に強く惹かれていました。

大学では音楽や音楽療法を学び、バンド活動もしていました。しかし、阪神・淡路大震災をきっかけに、余震の恐怖や音楽活動のストレス、将来への不安などから体調を崩してしまいました。回復後、病院でのボランティア活動をはじめ、被災者や高齢者が音楽や笑いによって表情をとり戻す瞬間に何度も出会いました。それが、私を落語修行へと導く大きな転機となりました。

一九九六年、桂福團治かつらふくだんじに弟子入りました。師匠は人情噺にんじょうばなしで天才的な話芸と評されるような方で、人物の心の動きや人間の温かさをていねいに描き出す芸に深く魅了されました。当初は、爆笑を誘う噺を演じたいと考えていましたが、師匠の芸に触れるうちに、笑わせるだけではなく、聞き手の心を温め、ときには涙を誘う落語もいつかできるようになりたいと思うようになりました。

また、師匠がつくられた手話落語と私の音楽を合わせた「バリアフリー落語」にも挑戦しました。聴覚に障害のある方にも落語を楽しんでもらいたい、そんな思いからの試みでした。

いっぽうで、弟子入りから名前をもらうまでには一三年を要しました。当時の社会、とりわけ伝統芸能の縦社会において、障害者が名前をもらうことは容易ではありません



かつら ふくてん

1968年、兵庫県生まれ。中学生の頃に視力を失ったが、子どもの頃から音楽に親しみ、1986年、大阪芸術大学に入学し音楽療法を研究。1996年、桂福團治師匠に弟子入り。古典落語をはじめ、独自の音や音楽、映像を交えた創作落語や、障がい者の理解を深めてもらう講演に取り組んでいる。また、笑いを交えた音楽療法や、障がい者の生活介護事業所「お気楽島」所長としての活動もおこなっている。

でした。その経験は、社会に残る差別の壁を肌で感じさせられるものでした。けれども、いろいろな人の支えがあつてその壁を乗り越えたことで、落語の意味を深く考えるようになったと思います。

NHK・Eテレの番組「バリバラ」や、同じNHK「視覚障害ナビ・ラジオ」などに出演させていただけたことは、自分の芸能活動において、すばらしい経験となりました。バリバラでは、障害者の暮らしの「あるある」を笑いを交えて紹介し、マイノリティの生き方を社会に届ける場となりました。番組を通じて、障害者に対する理解が広がり、笑いが人と人をつなげる力をあらためて実感しました。

平和活動も、私の活動の重要な柱です。戦争と障害者をテーマにラジオ番組を企画し、戦時中に障害者がおかれた過酷な状況や、沖縄戦でガマに避難し、だれの助けももらえず、いつ死ぬかわからないという恐怖にさらされた視覚障害者、家族と離れてさまよった障害者の証言などを紹介しました。戦争は障害者にとって、想像を絶するほど残酷なものであること、精神的にも肉体的にも「苦」そのものであることや、平和の重要性を社会に伝えることができたと思います。元沖縄県立盲学校校長・山田親幸（ちかゆき）さんの言葉「平和こそ最大の福祉だ」は、今も活動の支えとなっています。

笑いは一瞬の楽しみを生むだけではなく、人と人を結び、心を癒し、平和を育む力があります。落語を生業（なりわい）とすることは、その笑いの力を用いて、過去の悲しみや差別を乗り越え、未来をより平和にするためでもあります。今後も落語を通じて、障害も国境も越えて人と人がつながる場をつくりつづけたと思っています。

（聞き手 黄）

災害時における福祉の役割と意義を考え合う

二〇二四年一月一日に発生した能登半島地震から、丸二年が経とうとしています。災害が多発する日本において、社会福祉は災害時に、そして復興時にどのような役割を担うのか。道路や住まいなどのハード面の復旧だけでなく、一人ひとりの生活の再建の積み重ねなくして復興はありません。今年五月に成立した改正災害救助法に、はじめて「福祉サービスの提供」が位置づけられたことは、これまでの経験と実践、運動が法律につながった第一歩です。この改正に尽力された阿部知幸さん（認定NPO法人フードバンク岩手副理事長）は、次は福祉の法律に「災害時の対応」を明記させることが必要だと話されました。

生活の再建にとって社会福祉は不可欠です。そして、災害時にその役割をきちんと発揮できるように、平時から社会福祉がどれだけ地域に根づき、活動できているかが問われます。平時と災害時の社会保障・社会福祉の役割をつなげて考えながら、災害時における福祉の役割を、制度面、財政面、実践面でかたちにしていくことが求められています。

第三〇回社会福祉研究交流集会を能登で開催し、現地の方、全国の研究者や福祉現場の職員が一同に介して学び合えたことで、あらたなつながりが生まれ、ネットワークができました。こうした一つひとつのつながりが社会福祉の前進につながっていくことを、みなさんと共有したいと思っています。

（編集主任 申 佳弥）

第30回集会 プログラム

〈1日目 全体会〉

オープニング企画

「地域と歩み、未来へ!! ～現地の声と共に考える～」

小澤恵さん(社会福祉法人大阪福祉事業財団)／大平光さん(社会福祉法人みぬま福祉会)
／島本夏翠さん(社会福祉法人いずみ野福祉会)／道齊拳梧さん(福祉保育労働東海地方
本部のぎく分会)／牧野力斗さん(社会福祉法人コスモス)

記念講演 「尊厳ある暮らしをささえるために

——医師として、家族として、住民として語る複合災害」

小浦友行さん(ごちゃまるクリニック院長、一般社団法人ごちゃらあと理事長)

シンポジウム

「震災をきっかけにみえてきた生活課題に向き合って」

滝井元之さん(教育相談室「あした塾」代表、穴水町ボランティア連絡協議会理事)
河元寛泰さん(医療法人松原会 地域支援部部长)
阿部知幸さん(認定NPO法人フードバンク岩手副理事長・事務局長)
丹波史紀さん(立命館大学教授)

〈2日目 視察〉

～輪島コース～

- ・石川勤労者医療協会・輪島診療所にて
河崎国幸さん(輪島市役所健康福祉部長)のお話
上濱幸子さん(輪島診療所事務長)のお話
- ・輪島市内視察とお話：佐渡麗子さん(「健康友の会」専従役員)

～穴水コース～

- ・社会福祉法人徳充会 石川県精育園(障害者支援施設)にて
田中こす恵さん(園長)のお話と利用者さんとの交流
- ・農家民宿「春蘭の里」にて多田喜一郎さん(前理事長)のお話と昼食
- ・バス車内でのお話：水上幸夫さん(石川勤労者医療協会)